

「ふね遺産」(応募様式) : A4 一枚に収め、それ以上は別途資料添付して下さい。

2017年12月5日提出

氏名 : 碓崎 貞雄

所属 : ふね遺産西部支部調査検討委員会

メールアドレス : skakizaki1126@krc.biglobe.ne.jp

その他の連絡先 : 山口県下関市一の宮町 5-8-22

No.(*)	内容	備考
1. 対象物・資料の名称・所属または所有者	<p>名称 コンクリート貨物船第一武智丸 および第二武智丸</p> <p>所属 広島県西部建設事務所呉支部管理課</p>	<p>○ 本船の主要目は垂線間長さ 60.0m、満載排水量 2,200 トン、総トン数 800 トン、載貨重量 980 トン、主機関 ディーゼル 750 馬力 1 基、航海速度 9.5 ノット。</p>
2. 対象物の作成・存在時期	<p>○ 第一武智丸、第二武智丸とも昭和 19 年(1944)に竣工し沿岸航路に就航した。</p> <p>○ 昭和 22 年(1947)に呉市安浦漁港の防波堤に払い下げられ、船尾同士をつなげて沈設され、昭和 25 年(1950)に竣工した。</p>	<p>○ 本船の研究・設計は舞鶴海軍工廠が行い、姫路近くの曾根に新設された武智造船所で建造された。</p>
3. 現状 (写真添付)	<p>○ 手前左が第一武智丸が、その右が第二武智丸、右側突端は漁港入口を示す灯標。コンクリートの耐食性のため保存状態は良く原形をとどめている。</p> 	<p>○ 第二武智丸を船尾から船首を見る。</p> 
4. ふね遺産認定基準の該当項目(**)	<p>【認定対象】 (1)、(4)、</p> <p>【認定基準】 (1)、(8)、(10)、(12)、</p>	
5. 歴史的・工学技術的意義	<p>○ わが国最初の本格的なコンクリート貨物船で、E 型戦時標準船相当として設計建造された。</p> <p>○ 就航成績良好で、専用 6 造船所の建設が進められ、昭和 20 年(1945)4 月には 25 隻の建造を計画するが戦争終結のため果たせなかった。</p>	<p>○ 欧米では多くの自航コンクリート貨物船の建造実績があるが、わが国では 4 隻しか建造例がなく、その中の最初の 2 隻である。</p>
6. 参考資料・文献 (本表に収まらない場合は別途添付する)	<p>1.小野塚一郎 戦時造船史 今日の話社 1989</p> <p>2.牧野茂他 海軍造船技術概要 同上 1987</p> <p>3.遠山光一他 鉄筋コンクリート船の一設計 造船協会会報第 75 号 1944</p> <p>4.雑誌別冊歴史読本旧軍史跡 新人物往来社 2009 防波堤になった戦時急造船コンクリート船</p> <p>5.安浦町まちづくり協議会ホームページ コンクリート船 武智丸 web</p>	<p>○ 次の添付資料があります。 「コンクリート貨物船第一武智丸 および第二武智丸」</p>

(\*) No.は学会で記載します。

(\*\*) ふね遺産認定基準の【認定対象】と【認定基準】の項目の内、該当する項目を、文頭の番号で記載して下さい(複数項目可)。